

令和5年度の重点課題

- 情意面での課題
 - ・「運動が好き」と肯定的な回答をした児童が減少している。
 - ・外遊びを好む児童とそうでない児童の二極化が見られる。
- 体力面での課題
 - ・男子は7項目、女子は6項目において県平均値及び全国平均値を下回っている。

上記の課題を受けて具体的に取組んだ事項

- 運動に関する取組を決め、体育委員会を中心に全校へ啓発を行った。
 - ・2学期:ドッジボール大会
 - ・3学期:長縄跳び大会、障害物競走
- 教職員に向けた実技研修等を行った。

令和6年度新体カテストの結果 県平均値(令和5年度)・全国平均値(令和4年度)との比較

男子	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点	女子	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
第5学年	15.95	18.71	33.98	41.56	45.89	9.57	156.70	20.14	54.04	第5学年	16.61	18.09	35.58	40.41	33.68	9.91	154.13	13.35	54.69

県平均値かつ全国平均値未満

県の調査結果が公表された後、データ入力シートに最新の県平均値(R6)及び全国平均値(R5)を記入し、比較を行います。

県平均値かつ全国平均値未満

運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか

男子	好き	やや好き	やや嫌い	嫌い	女子	好き	やや好き	やや嫌い	嫌い
第5学年	67.80	27.12	3.39	1.69	第5学年	54.29	32.86	8.57	4.29

学校独自の意識調査

「運動やスポーツをすることがやや嫌い、嫌い」と回答する児童の割合は第5学年男子が5.17%(前年度比9.89%↓)、女子が12.86%(前年度比3.76%↑)であった。昨年度と比較すると、男子は割合が減少しているが、女子は増加している。
他の学年においても同様の調査を行い、児童の実態について分析していく必要がある。

重点課題

情意面での課題

- 第5学年の児童実態から
- 「自主的に運動やスポーツをする時間をもちたいと思いますか」の項目「あまり思わない、思わない」と回答する児童の割合
男子:18.6% 女子:18.3%
運動やスポーツをすることが好きであっても、進んでその時間を作ろうとしているとは言い切れない。

体力面での課題

- 男子
「立ち幅跳び」以外の項目について県平均値かつ全国平均値以下である。
- 女子
「握力」「反復横跳び」「立ち幅跳び」以外の項目について、県平均値かつ全国平均値以下である。

重点課題に対応した改善する取組内容及び方法

体育の授業で行う取組内容

- ① 授業の始めにタイヤ跳びやジャングルジム等の遊具を使ったサーキットトレーニングを行う。
- ② 児童に単元の学習計画を示し、学習の見通しをもたせる。主運動に繋がる準備運動を行うことで、十分な運動量を確保できるよう授業改善を行う。
- ③ 運動の楽しさを味わうことができる授業づくりを行う。運動の特性を感じられる学習計画を立て、「発達段階に応じた思考と試行の往還」の中で自己選択・自己決定を行いながら、児童同士が関わり合って運動を楽しむことができるようにする。

体育の授業以外で行う取組内容

- ① 運動に関する取組を決め、体育委員会を中心に全校に啓発する。
 - ・外遊びの習慣化を目指した外遊び奨励の取組(2学期に実施予定)
 - ・異学年交流を活用した遊びの取組(3学期に実施予定)
- ② 長期休業中の生活リズムを整えることを目指して課題を設定し、運動や外遊びの奨励を行う。

令和7年度の重点目標値

- ・新体カテストの総合評価(AB-DE)率15%以上を目指す。(今年度は13.2%)
- ・「運動やスポーツをすることは好きですか」の項目に対する否定的回答をする児童の割合10%未満を目指す。(今年度は9.3%)
- ・「体育の授業は楽しいですか」の項目に対する肯定的回答をする児童の割合95%を目指す。(今年度は93.8%)